

音響カプラ顛末記 -海外モバイル初体験 in インド- (97.08)

◆ 外国でもモバイルしちゃおうボク

「モバイル」とは、外出先でパソコン通信（インターネットを含む）をやることである。日本国内は電話事情が良いので、まあ、簡単だ。

私は、携帯端末に PHS をつないだり、デジタル公衆電話につないだりして通信している。で、なんでインドでモバイルかというとな次のような理由がある。

ここんどこ毎年海外に出かけているが、その間に「浦島太郎」になるのが嫌なのだ。

日本で何が起きているのか、リアル・タイムで知りたい！

ということで思い浮かんだのがパソコン通信の「ニュース速報」である。

ニフティ・サーブにつなげば、ニュースばかりか、友人や家族への連絡もできる。

費用は現地のアクセスポイントまでの電話料金と 1 分 20 円のコンピュ・サーブ利用料金のみ。（インドの場合は、タイムネットを利用するため 1 分 70 円）

国際電話とは比較にならないほど安い。その詳細を次に紹介しよう。

◆ インドからのアクセス

インドには、タイムネットのアクセスポイントが二カ所ある。一つはマドラス。もう一つはムンバイ（ボンベイ）。日本のモジュラーは「RJ11」といって、アメリカなどと同じタイプである。これは準世界標準というべきもので世界の一流ホテルはゆるやかにこれに移行しているという。

しかし、大部分は、その国独自の規格のものを使っている。従って事前にこれを手に入れる必要があるのだが、秋葉原の専門店にもインドのものは売っていなかった。



【音響カプラ】

そこで裏技を使う。「音響カプラ」だ。これを受話器に縛り付けて使う。音声を無理矢理、信号に替えて通信しちまおうという道具なので、当然、騒がしい場所では使えない。通信速度はやたら遅くなる。失敗も多い。しかし、これで成功した時は、思わずバンザイをしてしまうほど感激した。

かくして私は、インドから日本のニュース速報を読むことができたのである。

◆ インドの電話事情

感激した私は、バンガロールのホテルからマドラスへ市外電話を 15 回かけた。

うまく接続できないですぐに切れたのが半分以上のため、総通話時間は 15 分にみたない。

チェックアウトの時ホテルの電話料金の請求を見て目ん玉が飛び出た。

な な なんと 4 千円。（請求書は無論インドルピーだが）ナンナンダ、コレハ…???



【ホテルの電話機】

事情は次のようであった。

インドの電話料金は、夜 8 時から 11 時までが、日中の半額。夜 11 時から朝 8 時までだと、さらに半額（つまり四分の一）。8 時を待たずにかけたのがいけなかったらしい。

だが、これだけでは 2 千円にしかならない。なのになぜ???

驚いた！ ホテルのサービス料金が二倍も、つくのである。

こんなことが許されていいのか！

だいたい、市外通話（百キロ離れていない）の料金がバカ高いのも変だよなあ。

（ちなみに、最初にインドへいったとき、お酒の関税が 50 パーセントであった）← ざけんじゃ、ねえ！

でも、「これもインドなんだ」と妙に納得できるから、不思議ではあった。

このあと日本と同じモジュラー・ジャックの公衆電話を発見。「音響カプラ」の出番は終わった。二度とホテルの電話を利用することはなかったことを付け加えておく。